

発行日
平成28年2月10日

Vol.63



発行所

関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者

事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 間 誌

もくじ



●「新春を迎えて」玉川義光理事長	2
●新年賀詞交歓会開催	3
●組合員・賛助会員懇談会を開催	4
●技能実習・商品講習会実施	5
●受検対策実技講習を実施	6
●大空衛「配管コンテスト」で上位入賞	7
●4団体協議会を開催	8
●高校のマイスター活用シンポで発表	9
●3団体懇談会開催	10
●大阪管材展に出展	11
●新入会員	11
●玉川理事長が感謝状受ける	11
●日管連青年部会が北海道で合同部会	12
●理事会 議事要旨	14
●ニュースファイル	15

新春を迎えて

技能伝承で若者技能工を育成



理事長 玉川 義光

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。平素は、組合活動へのご協力に対し心より御礼申し上げます。本年もさらなるご支援のほどお願い申し上げます。

当組合は、平成4年6月、107社で技能を売る集団、関西配管工事業協会として創立、同6年5月には、北海道から九州まで全国7ブロックの技能集団組織の仲間で日本配管工事業団体連合会（日管連）を結成、交流を深めながら業界発展に向けて活動しております。

同8年9月には協会を協同組合へと発展させ、関西配管工事業協同組合を設立、今年は20周年記念の年になります。

さらに、「日管連」総会も今年は関西での開催です。また、当組合とダクト・保温保冷の団体で結成している「関西設備業3団体懇談会」も今年20周年を迎えます。このように、今年は記念行事の節目の年となります。

この二十数年間には、バブル崩壊、世界経済の大不況、大地震、大型台風による大災害、そして原発人災にも見舞われ、失われた20年でした。そろそろ、明るい展望も見えて欲しいと願っております。

当組合の使命と目標は「技能伝承で若者技能工育成」「高度な技能を売る集団組織へ」であります。

教育活動は、技術研修会から始まり、1級配管技能士認定訓練講座（学科試験免除コース）を積み重ね、育てた1級配管技能士が500人以上、さらに1級配管技能士が受験資格である登録配管基幹技能者は、全国で2762人、今回の3地区の講習済みを含めると中期目標3000人達成かと思われます。

組合事業は、特別加入の労災保険並びに労働保険事務組合として、「一人親方保険」加入者が1000人以上、働く技能工仲間が、この業界で大きな力になって、活躍されています。

今、建設業界は、団塊の世代の一斉退職で優秀な人材確保や技能の伝承に大きな衝撃を与え、既に人手不足、技能工不足は深刻で将来が危惧されています。国土交通省と厚生労働省は連携して対策に乗り出しています。この3年間、設計労務単価のさらなる引き上げを行い、「適正な価格での受注」で「適切な賃金水準の確保」を促し、4回にわたり「社会保険未加入対策推進会議」を開催し、加入の徹底で「技能工の適正な労働条件での待遇改善」を呼びかけています。

今、業界には追い風が吹いていますが、しかし、その追い風は現場で働く技能工には届いていないのが現実です。技能の伝承に向けて若者技能工育成のためには、高校生インターンシップはさらに増員し高等職業技術専門校へも一層協力し、1級配管技能士認定訓練講座は1000人を目標とし、技能コンテストへの協力、技能五輪を目指す若者への指導協力強化、登録配管基幹技能者は長期目標を6000人へ修正、ベトナム人実習生の受け入れを積極的に推進し、人材育成を最大の目標にかけ活動いたします。

現場で汗する技能工が、名誉と誇りを持って、この業界に一生を託すことができるよう、組合活動を通じて、実現できる範囲の夢と希望を叶えるため、最大の努力を惜しません。この一年が、組合員各社、そして業界で働く技能工やその家族、すべての人々が平和で安心して生活できるようになることを祈願いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年賀詞交歓会開催

—賑やかに申年スタート—

組合の新年賀詞交歓会は1月21日午後5時30分から大阪市都島区の太閤園で開催し、賑やかに新年の挨拶を交わして「申年」がスタートしました。賀詞交歓会には昨年の竹中工務店に加え今年は大林組からも出席いただき、ゼネコン、関連団体、教育機関、組合顧問からの来賓、組合員、賛助会員など合わせて70人が出席し庄司真之副理事長の司会で進められました。

年頭挨拶に立った玉川義光理事長は、当組合が今年創立20周年、当組合とダクト、保温・保冷の団体による設備3団体懇談会も今年結成20周年を迎える、また、上部団体の日本配管工業事業団体連合会の今年の総会は関西組合の担当で当地で開催することを紹介し、「今年は大きな節目の年になる」と述べるとともに、「引き続き、配管技



管工事業協同組合



年頭挨拶を述べる
玉川理事長

能士、登録配管基幹技能者の育成に注力し、ベトナム人実習生の積極的な受け入れをはじめ、若手人材確保の道を探りたい」と述べ、「現場で汗する技能工が名誉と誇りを持ってこの業界に一生を託すことができるよう、最大の努力をする」と新年の抱負を述べました。

来賓紹介に続き、大阪空気調和衛生工業協会の城口俊雄副会長が来賓を代表して「技術・技能の継承は建設関連業界にとって重要な課題であり、その活動に力を注い

でいることに敬意を表するとともに、当協会の配管技能コンテストに多大なご協力をたまわり深く感謝する」と挨拶。大阪府中小企業団体中央会の川口輝彦労政調査部長の発声で乾杯したあと賑やかに交歓しました。

途中、来賓の竹中工務店大阪本店の乾重樹・調達部長と大林組大阪本店の北本恒雄・設備調達部長がそれぞれ期待を込めて来賓祝辞を述べました。組合顧問、教育関係者も祝辞を述べ、賛助会員は1社ずつ壇上で自社PRを展開しました。

宴半ばには1級配管技能士検定の実技実習のスクリーン放映が行われ、最後に山田誠香副理事長が「ゼネコンの皆さん當組合員に発注してほしい」と笑顔で閉会の辞を述べ、同氏の音頭で威勢よく一本締めを行って躍進を誓いました。

管工事業協同組合



閉会の辞を述べる
山田副理事長



司会は庄司副理事長

城口氏が来賓挨拶



新年の門出を祝って乾杯

組合員・賛助会員懇談会を開催

厳しい若手雇用情勢

仕事量の先行き不透明

第6回「組合員・賛助会員合同懇談会」を12月3日に当組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催し、人材確保の問題、材料価格動向、市場情勢などについて情報・意見交換しました。

懇談会には組合員、賛助会員合わせて26名が出席し、庄司真之副理事長の司会で進められました。最初に玉川義光理事長が「われわれ組合員は賛助会員の皆様の協力なくしてやっていかれない。また、電車のレールのように両方が協力し合ってこそ発展できる。力



が、営業部門が不足気味」、「かつて外国人労働者も雇用していたが、今はいない。人数的には確保できている」、「フィリピン工場では現地採用し、その人たちを毎年2~3人、本社に研修生として受

の意見が出されました。

材料価格については、賛助会員から「原油は下がっているが、鉄関連メーカーなどが値を下げないので金属製管材の販売価格も下げようがない」、「塩化ビ

賛助会員出席者



を合わせて設備業界、配管業界を守っていただきたい」と挨拶。引き続き、玉川理事長は、外国人の若手人材確保を模索するため組合員数人でベトナムへ実情視察を行ったことに触れ、「若いベトナム人の質の高さを認識した。今後、技能実習生として採用する方向で検討している」と報告しました。

組合員、賛助会員から人材の実情が報告され、組合員からは「高卒者がぜんぜん来ない」、「採用は縁故者が中心」など配管業界を取り巻く厳しい雇用情勢が浮き彫りになりました。賛助会員からは「製造部門ではほぼ足りている

け入れている」、「新卒社員の数は確保しているが、優秀な人となるとそう多く確保できない」——などの状況が示されました。

仕事の繁忙状況、実勢価格については、「来年以降の仕事量が見通しつかない」(組合員)、「大阪の大型物件がほぼ終了し、マンションの大規模修繕がある程度」(組合員)、「衛生工事のほうが空調工事より単価は高い傾向となっている」(組合員)、「サブコンの大型現場では納入単価が極端に低く、収益が上がらない」(流通賛助会員)、「利益は思うように確保できない」(賛助会員)——など

ニル業界もメーカーが強気の姿勢を崩さない」となるとそう多く確保できない」——など材料価格は当分現状で推移する見通しが出されました。このほか、配管資機材の動向については、「電気融着式の樹脂製品などが評価されており、徐々に普及する傾向にあるが、鉄関連メーカーの攻勢もあって急激には変わらないとみる」などの意見が支配的でした。

議事のあと、近くの料理店で懇親忘年会を催し、ここでも和やかに情報交換しました。

手動ねじ切り実習と商品講習会

新商品／新工法学ぶ



組合は、12月5日（土）に大阪府東大阪市のレッキス工業本社工場で1級配管技能士検定に向けた「手動ねじ切り実習」と新商品・新工法講習を実施しました。

講習会には受講者16名が出席し、今年度の技能士検定に備えて12月開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ね、手動ねじ切りを実習しました。また、シーケー金属による白継手と管端防食継手、レッキス工業による配水用ポリエチレン管（P E管）融着工具の講習が行われました。

この講習会は毎回、レッキス工業の全面的なバックアップにより実施されており、今回で16回を数えます。この日も土曜休業日にかかわらず同社幹部・技術スタッフが出勤し研修をサポートしていただきました。

冒頭、玉川義光理事長はレッキス側に感謝の言葉を述べるととも



レッキス工業による講習とねじ切り実演

に、「1級配管技能士の資格を取り、さらに上級の登録配管基幹技能者の資格取得をめざしていただきたい。また、建物は70年もの耐用年数があるとされる中、従来の配管機材では35年ほどしか持たない。P E管、ハイパー管、融着工法など新時代の配管技術を学んでほしい」と激励を込めて挨拶しました。

講習では、技能検定に必須のパイプの手動ねじ切りについて、レッキス工業の担当者からレクチャーを受けながら実習しました。また、同工場に隣接する「レッキスミュージアム」でパイプマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学

びました。

このあと、シーケー金属とレッキス工業の担当者による新商品・新工法の講習が実際に商品、機器の作業実演を交えて行われました。シーケー金属からは「白継手と管端防食継手、シール付継手」について商品・技術説明が行われました。レッキス工業からは、「正しいねじ加工」について管の切断、パイプマシン設置上の注意点とその電源の確保、オイルの選定、ねじの検査など幅広い視点でのチェックポイントの説明が行われたほか、近年増えつつあるP E管融着工具についてはそれを取り巻く情勢と作業手順などが説明されました。



シーケー金属による商品の実地講習



レッキスミュージアム見学

技能士受検対策実技講習

1級技能士めざし実地模擬検定

平成27年度の1級配管技能士検定(28年1月)へ向け、組合では12月19日(土)と20日(日)の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大坂府立南大阪高等職業技術専門校で受検対策実技講習を行いました。

講習は先にレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで昼食をはさんでびっしり行われました。20名の1級配管技能士の受検予定者が鋼管、塩ビ管、銅管の切断や管継手との接続など受検本番ながらの講習に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、澄川史朗講師による「材料取り・ペーパーテスト」の講習(座学)が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験が実施されました。

午後の実技講習では、まず玉川義光理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。



材料取りのペーパーテスト

この中で玉川理事長は、組合が独自に作成した「実技テキスト」に基づき、作業の細かいコツなどを交えて作業手順を説明しました。課題作品製作に先立ち、パイプを真っ直ぐ切断するため、その要項説明が行われ、それに基づいて各自が切断したサンプルを提出させて指導しました。

このあと、宮本泰仁指導員と池成信夫指導員が手動ねじ切りと溶接の模範実技を行い、それぞれの作業の要点などを実技で指導しました。

引き続き、実技講習に移り、指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は切断、接合・接着、配管組立などで作業試験の課題作品づくりに取り組みました。

2日目は、午前中、前日の材料取り練習問題試験で及第点に達しない受講者は補講を受け、あの受講者は前日の反省を交えて実技講習を受けました。

午後は受検本番と同じ時間で課



実技の作業要項の説明



ねじ切りの模範実技



銅管溶接の模範実技

題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検

定作品の製作に懸命に取り組んで完成させ、指導員から寸法採点、

水圧テストを受けて反省点を洗い出し、受検本番に備えました。



指導員のアドバイスを受けながら懸命に課題作品の製作に取り組む



大空衛「配管コンテスト」 当組合員から準優勝と第5位

8月22日に東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校（ものづくりカレッジ）で開催された大阪空気調和衛生工業協会(大空衛、会長太田隆氏)主催の第7回配管技能コンテストに当組合は選手を派遣するなどで参画し、組合員企業の選手が準優勝と第5位の上位入賞を果たしました。

コンテストは現場の第一線で活躍する配管技能者を「一般の部」、建築設備関連学科を履修中の専門学校生・高校生を「学生の部」として実施されました。今回は一般技能者25人、学生・生徒20人の計45人が参加。一般の部では1級配管技能士検定レベルの課題作品製作（制限時間3時間）に、学生は同3級レベルの課題作品製



表彰される準優勝の佐藤氏
(右端は第5位の黒川氏)

作（2時間30分）に挑戦しました。

一般の部では、浪越国重氏（有越智工業）が優勝、準優勝には当組合員・株ツカサの佐藤淳氏が入賞したほか、第5位にも同社の黒川善幸氏が入りました。なお、第3位は浅野清治氏（浅野設備）、第4位は星野正幸氏（有山中設備）でした。



学生の部では布施工科高等学校の今岡優介君（2年）が優勝し、彦根工業高等学校の藤本章太君（3年）が準優勝となりました。第3位に布施工科高等学校の木本拓馬君（3年）、第4位に同校の小西翔君（3年）、第5位に同校の岩永明香里さん（2年）が入賞しました。一般の部優勝者には大阪府職業能率開発協会会长賞、学生の部優勝者には大阪府知事賞がそれぞれ授与されました。

4団体協議会を開催

「社会保険」「若手育成」で意見・情報交換

当組合、近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会と大阪空気調和衛生工業協会（大空衛＝サブコン団体）で構成する4団体協議会の第19回会合が7月27日に、第20回会合が11月30日に大阪市中央区の新トヤマビル3階貸会議室で開かれ、「社会保険未加入問題」「現場における諸課題」「若手後継者の育成・確保問題」を主要議題に意見・情報交換しました。

19回会合では「社保問題」について、ゼネコンは一次下請の保険未加入業者とは契約しない方針であり、平成28年度末までに全下請業者に対して保険加入を求めている状況が報告されました。ゼネコンでは下請業者を集めて保険加入を指導しており、サブコンへは下請業者に対して、保険加入指導をどのようにしているかなどのアンケートがきているとの現状が示されました。意見交換の中では、サブコンから見て一次下請業者の社会保険加入状況は大丈夫と思われるとの見方が大勢を占めました。しかし、問題はその次の下請であ



第20回会合

り、「社会保険加入が下請業者に相当な負担となっている」、「未加入者の声は、加入すれば会社経営に打撃となる」という見方が出されました。

また、「標準見積書（法定福利費記載）」の活用については、徐々に広がってきてているという見方が多い反面、「形は整い始めているが、実際に法定福利費が確保されているかは確認できない。まだ見積書で止まっている」という声がありました。

現場における諸課題については、職人の賃金は以前より上がってきてているが、近畿の中でも大阪の賃金は安い状況にあるという見があり、「職人の賃金が2万円とすると、社会保険を加えると2

万8000円となり、この社会保険分の負担が厳しい」と社会保険問題絡みでも難しい局面にあることがわかりました。

若手後継者の育成については、団体活動を通じて布施工科高校、北大阪高等職業技術専門校が身近になり、その結果、優秀な人材を採用することができた事例が報告され、高校、専門校との連携は非常に大事であるということで意見が一致しました。また、インセンティブを通して、設備工事に触れてもらう機会が大事であり、地道ではあるが取り組んでいきたいとの意見が出されました。

20回会合では保険未加入問題について、大手ゼネコンの一部で11月から取引企業に対し、見積り段階で法定福利費の別枠計上を義務付け、社会保険事業主負担分を支払うことを始めたことが報告されました。見積もり段階で法定福利費を別枠計上したものを、契約段階では見積書だけに法定福利費を明記した上で、その後の出来高請求や精算時には工事分と法定福利費分の合算額で支払う仕組みとす



第19回会合

るものです。

法定福利費を明記した標準見積書の活用は、大手では提出を義務付けてきているが、その下になるとなかなか活用されていない現状も報告され、「標準見積書を提出しても最後の総額契約で法定福利費が確保されているか疑問である」、「法定福利費確保の第一歩として標準見積書の活用をさらに求

めていく必要がある」などの意見が出されました。

技能者の不足問題については、人手不足による工期の遅延が発生しており、とくに、建築の型枠工、鉄筋工、内装工の不足が深刻で、工程のしわ寄せが設備工事にきている現状が示されました。「完成予定を間に合わせるために職人を大量投入する状況に追いやられて

いる。その際の、応援職人の日当が高いため、工事費に影響が出て、さらに、超過負担分は支払われない状況が続いている」といった切実な意見が出され、「工事費確保のために設計労務単価の値上げを強く求めていく必要がある」などの意見が大勢を占めました。

高校のマイスター活用シンポ 当組合の池成マイスターが発表

大阪府職業能力開発協会主催の「ものづくりマイスター」などによる事例発表やパネルディスカッションを交えた「学校教育におけるマイスター指導の活用シンポジウム」が昨年10月9日、大阪・阿倍野の「あべのハルカス」会議室で開催され、当組合の配管マイスター・池成信夫氏（組合理事）が高校での実習指導の実情などを発表しました。

シンポでは、同志社大学社会学部の石田光男教授、産業技術短期大学ものづくり工作センターの久保田憲司講師、機械系学科・設備系学科を有する工科高等学校の教諭、配管マイスター、機械加工マイスターを発表者・パネラーとし、府内の工業系高校の教諭など約100人が出席しました。

最初に産業技術短大の久保田氏が「魅力あるものづくり、ひとつづくり」と題して基調講演。次いで、高校教諭、マイスターが実際に高校で生徒を指導したさいの事例と評価を発表しました。本誌関

連では、大阪府立布施工科高校の小倉一浩教諭と池成・配管マイスターが同校での授業の現状を報告。小倉教諭はマイスター派遣要請の背景について、①プロの技を体験させたい②技術・技能のレベルアップ③技能検定（配管技能士）の合格者数アップ——を挙げました。池成マイスターは、受講者（生徒）の態度や行動について、「技能修得意欲が高く、熱心な態度」、「真剣に話を聞き、分からないところはすぐ質問てくる」、「指導した内容を忠実に再現する」と十分手応えを感じていることを報告しました。さらに、生徒がとくに関心を示したところは「作業手順を効率的に考える」や「順調にいかないときの対処法」を挙げました。小倉教



発表する池成マイスター（右は布施工科高校・小倉教諭）



諭、池成マイスターとも実習指導の問題点として、「生徒は実習した時間だけ確実に技術・技能が向上するのに、その時間が少ない」と指摘しました。

このあと、石田・同志社大教授をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、配管系パルラーからは設備系建設業の女性技能者の活用を訴える意見などがされました。

第38回「3団体懇談会」

人材確保育成とマイナンバー制度で意見交換

当組合と近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会で構成する「3団体懇談会」は11月27日、大阪市北区のグラン・アーモ TAMA HIMEで第38回会合を開き、人材確保育成、マイナンバー制度などについて意見・情報交換しました。

会合には当組合から8名、ダクト団体から4名、保温保冷団体から5名の計17名が出席しました。

会議は当番幹事の当組合・庄司真之副理事長の司会で進行され、最初に当組合の提案事項である人材確保育成について情報交換しました。

当組合からは「団塊の世代が退職し、技能に長けた者が少なくなってきた。技能労働者が65歳から近々70歳ぐらいまで延長されるかも知れない」、「高校生のインターンシップも現在2年生になっており、高校を卒業しても大企業に就職するものがほとんど」、「外国人労働者の雇用について現地（ベトナム）へ6月と11月の2回行き、面接をして対応してきた。そのうち2名を採用予定している」などの報告が行われました。

ダクト団体からは「今年の7月に大阪府建団連主催の建築技能体験フェアに配管とダクトの組合で出展し、一般の人に業界のPRをしてきた。一層業種の認知が必要と思われる」、「女性従業員の活用



挨拶する当組合・玉川理事長



当組合・庄司副理事長の司会で進行

と社会保険の充実、職場環境の改善などが必要である」、「外国人労働者（ベトナム）を使用しているが、素直である。仕事の覚え方が熱心」といった意見が出されました。保温保冷団体からは「外国人については、企業としては今のところ受け入れ態勢は取っていない」などの状況が報告されました。

マイナンバー制度に関しては、当組合から、当日配布した研修資料の概略が説明され、各社の取り組みについて出席者の説明を求めました。その中では、制度の講習・研修会では企業のペナルティの説明ばかりで、どのように取り組めばいいのか分かりづらい」、

「会社としては具体的には動いていない」、「サーバーで管理すると費用が入用になってくる」、「会社としては、各社員から番号を提示してもらって、それをノートに書き写しとておくことにしている。パソコンに入力することは非常に危険である。コピーも駄目と指摘されている」などの状況が示され、「当面、事態の推移を静観する」との見方が大勢となりました。

社会保険加入に伴う見積書の作成、関西地区における仕事の繁忙状況についても情報・意見交換しました。このあと、同所で懇親会を催しました。

第17回大阪管材展に出展

組合の存在・活動を紹介

管工機材と設備機器を一堂に集めた「管工機材・設備総合展 OSAKA2015」（第17回大阪管材展=大阪管工機材商業協同組合主催）が昨年9月10～12日の3日間、大阪・南港のインテックス大阪で開催され、当組合は後援団体として参画するとともに、出展して組合の存在・活動などを幅広い層にアピールしました。

同展は関西地区の管工機材・設備機器の一大イベントとして知られ、隔年開催されているものです。今回は過去最多の182（前回179）の企業・団体・公的機関などが出展。出展ブースも満小間の308小間（前回301小間）と過去最大規模での開催となり、これまで以上の熱気に包まれた展示会となり、前回を大きく上回る1万4622人の来場者で賑わいました。

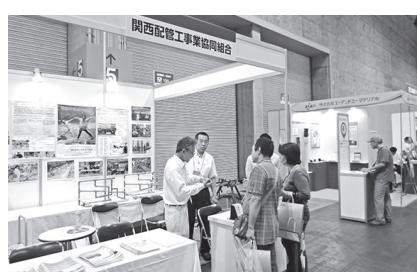


今回はメインテーマに「管動発信！流体テクノロジー すごいぞ日本」を掲げて開かれました。各ブースでは省エネ、リサイクル、環境負荷軽減に貢献する幅広い管工機材・設備機器が一堂に集結し、最新情報を発信しました。

当組合は、事業活動などを紹介



テープカットに臨む当組合の玉川理事長（左から3人目）



来場者に組合の存在をアピール



配管作業をデモストレーション



したパネルを展示し、また事業内容や組合概要を掲載した資料などを配布したほか、配管技能士の実技試験用のモデルも実物展示し、さらに、パイプ切断の実演コーナーも設け、学生・生徒などに配管職種をアピールしました。

新入会員

【組合員】

ホーセック(株)

代表者 毛利 正幸氏

〒612-8486

京都市伏見区羽束師古川町

236番地1

Tel.075-931-6661

Fax.075-931-6665

【贊助会員】

(株)エピット

代表者 大森 一弘氏

〒541-0053

大阪市中央区本町1-5-7

西村ビル6F

Tel.06-6253-1355

Fax.06-6227-8168

(株)ヒトミ

代表者 人見 康裕氏

〒612-0029

京都市伏見区深草西浦町

8-133-1-2

Tel.075-642-4121

Fax.075-642-4150

玉川理事長

職能開発協会から感謝状

当組合の玉川義光理事長は、昨年11月に大阪府職業能力開発協会から感謝状を贈呈されました。多年にわたり、職業訓練の普及推進に功績があったとして同協会の推薦により、感謝状を贈られたものです。昨年11月25の「平成27年度大阪府職業能力開発促進大会」で賞状を受けられました。

日管連全国青年部会

北海道で第6回部会開催

日本配管工事業団体連合会傘下の各地区団体青年部会で組織する日管連・全国青年部会（部会長朝倉博昭氏＝関西団体）の第6回部会が10月23日に北海道で開催されました。

今回は北海道配管事業協同組合青年部（遠藤一徳部会長）の担当で開催されたもので、意見交換会を開き、活発な交流を通じて青年部会活動の活性化への方策を模索しました。



23日正午過ぎに各地から札幌市にあるジャスマックプラザホテルに集合した会員は、北海道、東北、関東、中部、中国、関西、九州の7団体からオブザーバーなども含め約60名。1年振りの再会を喜び合いました。合同部会に先立ち開かれた部会長会議で役員改選が行われ、朝倉部会長、松原政敏副部会長（関東団体）がそれぞれ再任され、朝倉部会長が「皆様のご協力のもと、あと2年精進して頑張っていきたい」と挨拶しました。

臨時役員会のあと、意見交換会



が開催され、遠藤一徳・北海道青年部会長の挨拶に続き、各地区的近況報告及び活動状況が発表され、活発な意見交換が繰り広げられました。



各支部からの近況報告では、関東青年部会の松原部会長から、BCP対策（事業継続計画）に関する情報提供がありました。関東青年部会ではBCP委員会を立ち上げ、大規模災害の緊急事態に対応し、組合員の安全や企業の安定的な継続を汲み上げていこうという計画を進行中です。大震災や大水害において「いち早くライフラインをはじめとした復興のために、あらかじめ材料を確保するルートを決めておく」ことや「重機・レンタル機材などの資材を適当に配分する」など、メーカー、

小売店、代理店などと協定を結び、災害対応を円滑に進めていこうとしています。

こうした動きに対して、全国規模で連携していくとの意見が出され、今後、意見をまとめて親会の理事会でも提案し、来年度あたりから全国組織のBCPを作成していくとの意見で一致しました。

また、前回に引き続いて関西青年部会の齊藤竜久氏から、〈日管連・助け合いネット〉の近況報告がありました。職人不足・仕事不足の情報を共有する場がなく、機会損失が発生している現状の打開策として、全国の会員が運営サイトを通じ、「応援を依頼したい会社」と「仕事を求める会社」の情報を共有し、ビジネスチャンスにつなげていく試みです。

齊藤氏の報告では、6月から試験運用がはじまり、組合会社は18社、賛助会員で6社が登録しています。まだまだ活用されているとはいいくらいの現状ですが、課題や問題をクリアしながら実践的で実用になる仕組みに変えていきたいと意欲を示しました。

このほか、会員増員・組織基盤



の拡充などさまざまな課題に対し、全国青年部会が協力し合いながら力を注いでいくこととしました。意見交換会終了後、懇親会を催し、賑やかに交歓しながら親睦を深めました。

=各青年部会の近況報告要旨=

北海道=札幌近郊は大型物件が多数で好調を維持している。学校の改修工事が多く、病院の新築・改修、テナントビル、マンションなどの大規模な改修工事もある。全体の仕事量は増加傾向だが、身勝手な建築工程に振り回される場面が以前よりも増加している。

労務単価については、以前は1万5000円あたりが相場だったが、最近は1万8000円が最低金額で、3万円前後まで上がってきてるケースもある。札幌は2026年の冬季オリンピックの招致活動も行っており、明るい材料がある。今後の課題は人材不足に尽きる。若手が考える組合事業にしていきたい。

東北=工具メーカーを呼んでの青年部勉強会や定例会などの情報交換会を実施している。当団体は会員数が少ないが、今年3社加入してくれた。震災から4年7カ月が経ったが、2015年3月までで、岩手、福島、宮城の3県で9万人が仮設住宅を余儀なくされ、復興には時間がかかるとみられる。復興需要などで単価も上がってきている。仕事量次第では労務単価3万円近くになる。当地区の建築関連業者は潤ってきている。

関東=オリンピック関連については、国立競技場の空調工事は中止になったが、仕事はまだ溢れているので、地方の方でも余力があれば手伝いにきてほしい。繁忙期



になると関東の業界だけでは追いつかない。また、プローカー的な会社を取り除く意味もあり、基本的に1カ月、最低で1週間ぐらいを目安に、この時期だけ人手がほしいというのを組合に流して協力し合えるシステムを考え、動き出している。

中部=名古屋駅前の再開発が進んでおり、来年までピークが続くだろう。リニア開通に向けて駅の南側では大型の工事が決まっている。トヨタ関係の設備投資が旺盛で、その傘下のアイシンやデンソーなども工事関係が増えてきている。当地区も親会と合同でホームページ上で、助け合いネットみたいなものやらないかと案が出ている。

関西=毎月、20名ほどが集まって定例会、勉強会を開催している。京阪神は年度末にかけて仕事量が増えてきている。来年4月以降の物件は、見積もり依頼数は多いが確定までは至っていない。大阪市内、神戸市内など外国人旅行客が増えた一因でタワーマンショ



業界の発展を祈念して乾杯

ンや大学や病院の新築・改修工事があるが、駅前の開発などの目玉的な物件は挙がっていない。

業者間の応援単価は、1万8000円から2万円ぐらいと横ばいの状況が続いている。

中国=全体的に仕事量が増えた。主な物件は岩国の大蔵基地、広島駅周辺の再開発、学校の耐震補強工事、病院の改修工事などさまざまな案件が出ている。しかし仕事量に対して作業員の数が足りない。作業員の不足は設備業者だけではなく特に内装業者などで極端に不足している。それに伴い、着工の遅れや内装工程の遅れなど無駄な時間と人員減少につながっている。人員確保のため、外国人労働者の就業者も増えてきた。技術習得の時間がかかるこの業界で、外国人労働者をどのように雇っていくかを考えないといけない。

九州=仕事量自体はそんなに変わらないが、福岡市内では建築物が増えてきた実感がある。職人不足は相変わらずである。単価は大幅に上がった感覚はなく、そんなに儲かっていない。九州にも景気の波が訪れるのを待っている。業界に若手が入ってこないことを懸念している。若手が入職できる環境の場を提供するのもわれわれの役目だと思う。

理事会 議事要旨

【27年9月】

- ①大空衛主催の第19回4団体協議会出席報告
- ②大空衛主催の第7回配管技能コンテスト開催報告
- ③大阪府建団連主催の第2回建築技能体験フェア参加報告
——7月31～8月1日に花博記念公園・ハナミズキホールで開催され、当組合はダクト組合と共同で設備ブースに作品展示と実技の模範演技を実施
- ④国土交通省近畿地方整備局主催の社会保険未加入対策推進説明会への出席報告
——8月10日に大阪・大手前の國民会館で開催され、当組合から玉川理事長、庄司副理事長が出席。説明会の概要報告
- ⑤日管連の平成27年度（第10回）定時総会・理事会への出席報告
——7月17日に仙台市で開催され、当組合から5名が出席。議事録などで概要報告
- ⑥賛助会員からの脱退申し出の件
- ⑦新規賛助会員の加入申し込みの件
- ⑧新規組合員の加入申し込みの件
- ⑨大阪管工機材商業協同組合主催の第17回管工機材・設備総合展の出展ブース決定と役員当番表の確認ならびに出展内容の検討
- ⑩技術研修会開催日と要項作成
11日管連の平成28年度（第11回）定時総会開催に伴う開催担当組合として開催日程と会場の検討
- ⑪その他
——竹中工務店・竹和会設備部会の専門工事会社（配管・ダクト）の30～40歳代中心の意見交換会の開催について
——大阪府立北大阪高等職業技術専門校からのテクノ講座説明
——外国人技能実習制度の概要と技能実習生受け入れについて

【27年10月】

- ①平成27年度認定職業訓練配管科1級技能士コース修了報告
——申込者20人全員が修了。今回が17回目（平成11年度～）で延べ498名が修了
- ②大阪管工機材商業協同組合主催の第17回管工機材・設備総合展開催終了の報告
- ③日管連青年部会の平成27年度（第6回）全国青年部会開催に伴う当組合からの出席報告
——10月23日に札幌で開催され、当組合から10名出席
- ④1級配管技能検定の受検対策としての実技講習会開催要項作成
- ⑤第6回組合員・賛助会員合同懇談会の開催要項作成
- ⑥日管連の平成28年度定時総会開催に伴う開催担当組合として開催日程及び会場ならびに親睦行事の検討
- ⑦その他
——高校教育におけるマイスター指導の活用シンポジウムの開催について
——大阪府立北大阪高等技術専門校から依頼の工事現場見学会について

【27年11月】

- ①組合の平成27年度上半期の会計収支状況の報告
- ②日管連の平成28年度定時総会の日程及び会場の検討
- ③第38回3団体懇談会に伴う当番幹事団体として当組合からの提案事項の検討
- ④平成28年度認定職業訓練配管科1級技能士コースの実施計画作成
- ⑤平成28年新年賀詞交歓会の開催要項作成
- ⑥その他
——「高校のマイスター指導活用シンポ」（前出）での当組合

員の事例発表（池成マイスター）について

——大阪府立北大阪高等職業技術専門校の平成27年度訓練生のプロフィールについて

【27年12月】

- ①第38回3団体懇談会出席報告
- ②大空衛主催の第20回4団体協議会出席報告
- ③日管連の平成28年度定時総会の開催日および会場ならびに親睦行事日程の決定報告
——11月13日の日管連理事会に当組合から暫定的日程を提案し協議したところ、総会は7月8日（金）、会場「太閤園」に決定。親睦行事のゴルフコンペは9日、観光は9～10日に決定
- ④日管連の理事会出席報告
- ⑤第6回組合員・賛助会員合同懇談会の運営打ち合わせ
- ⑥その他
——玉川理事長が大阪府職業能力開発協会より職業訓練推進功労者として感謝状受賞

【28年1月】

- ①技術研修会終了報告
- ②平成27年度1級配管技能検定受検対策の実技講習終了報告
- ③第39回3団体懇談会開催に伴う当組合からの提案事項検討
- ④日管連の平成28年度定時総会開催日に実施される日管連全国安全大会開催要項の作成
- ⑤同上で決議する実践スローガンの素案作成の検討
- ⑥同上定時総会・懇親会などに伴う概算予算
- ⑦平成28年新年賀詞交歓会の運営打ち合わせ
- ⑧その他
——2月定例理事会休会の件
——大阪府建団連主催の第3回建築・技能体験フェアの実施について（7月15～16日）

国交省 新労務単価 配管工全国平均1.3%増

国土交通省は、2月1日から適用する公共工事の工事費の積算に用いるための公共工事設計労務単価を全国・全職種平均で前回設定した2015年2月比4.9%増の1万7704円(日額)に引き上げました。ただ、配管工は15年2月比1.3%増の1万8142円にとどまりました。

近畿ブロックの設備主要3職種の公共工事設計労務単価 (単位:円)

	配管工	15年2月比 増減額	ダクト工	15年2月比 増減額	保温工	15年2月比 増減額
福井県	18,400	500	17,600	▲200	20,900	▲400
滋賀県	18,800	500	18,300	500	20,900	▲300
京都府	18,700	100	17,900	300	20,900	▲300
大阪府	19,200	▲300	17,900	300	20,900	▲300
兵庫県	17,800	100	17,800	300	20,900	▲300
奈良県	19,200	▲300	18,000	▲200	20,900	▲300
和歌山県	18,400	100	17,800	300	20,900	▲300

設計労務単価の引き上げは13年度以降4回目で、国交省では、労働市場の実勢価格を反映するとともに、社会保険未加入の建設作業者の加入促進に向けて必要な法定福利費相当額を盛り込んだとしています。

公共工事設計労務単価は公共工事などに従事する建設労働者の基準賃金。国交省や農水省が所管する公共工事に従事した労働者に対する賃金支払い実態調査に基づき設定するもので、公共工事の工事積算に適用されます。ただ、下請契約での労務単価や雇用契約での労働者への支払い賃金を拘束するものではありません。

配管工で一番高いのは東京の2万500円、次いで千葉2万300円、栃木2万100円、茨城2万円など。

近畿ブロック(福井を含み2府5県)の平均は1万8642円、トップの大坂と奈良は1万9200円でそれぞれ15年2月比300円の下落。

配管工の労務単価は関東から西へいくほど低下傾向にあり、近畿以西では中国が1万6400円~1万7100円、四国が1万7100円~1万8300、九州が1万5600~1万6600円となっています。

配管以外の設備工事関連職種で

(12.9%)から0.7%低下、3年連続減少しました。一方、発注者(施主)から「不当なしわ寄せを受けたことがある」と回答した業者は5.0%で、前回調査(4.3%)から0.7%増加し、2年続きの減少から増加に転じました。

国交省などが取り組んでいる建設業の社会保険加入促進に関連して、前回に引き続き法定福利費が内訳明示された見積書の活用状況についても調査し、その結果、法定福利費が明示された見積書(標準見積書)の提示を全部または一部の下請契約で働きかけている割合は33.2%で、前回(28.7%)から4.5%増加、標準見積書を全部または一部の工事で提出している割合は35.9%で、前回(31.6%)から4.3%増加しました。

昨年の近畿マンション微増

不動産経済研究所が発表した近畿圏の民間分譲マンション供給は1万8930戸、前年比0.6%の微増にとどまりました。首都圏では同9.9%減の4万449戸と不振でした。価格上昇の影響で2年連続して減少したとみられます。

近畿圏では、大阪府下(2%減)、神戸市部(14%減)、京都市部(20%減)、奈良県(55%減)、滋賀県(52%減)、和歌山県(11%減)が低調で、主要市場の大坂市部が(15%増)が好調、兵庫県下(36%増)、京都府下(2%増)も増加しました。同社では近畿圏の今年の供給は2万戸程度、15年比5.7%増の見込みとしています。

はダクト工が同1.7%増の1万7725円、保温・保冷工が同0.3%増の1万9919円となっています。

依然多い下請へのしわ寄せ

国土交通省がこのほど公表した2015年度「下請取引実態調査」によると、建設工事を下請負人に発注したことのある建設業者(9598者)のうち、建設業法に基づく指導を行う必要のない建設業者(適正回答業者)は293業者(3.1%)で、14年度の前回調査(3.0%)とほぼ同じでした。調査は全国約1万4000業者を行い、1万1953の有効回答を得てまとめたもの。

調査結果では、元請負人から「不当なしわ寄せを受けたことがある」と回答した業者は11.7%と、一昨年7~9月の前回調査

事業主の皆さん、 労働保険に入つて いますか？

労働者を1人でも雇っている事業主は労働保険に加入する義務があります。労働保険とは「労災保険」と「雇用保険」を総称したも

ので、労働者を1人でも雇用されている事業主の方は、労働保険に必ず加入しなければなりません。

お問い合わせ先

- ◇労災保険制度については
労働基準監督署へ
- ◇雇用保険制度については
ハローワーク（公共職業安定所）へ

【労働保険事務委託団体・労働保険事務組合】

関西配管工事業協同組合

【労災保険・特別加入団体】

関西配管工事業協同組合・一人親方組合

AS 株式会社 アウス

スーパートラップ付目皿 ワンタッチ掃兼金具
(スーパー トラップ付き)

簡単に施工でき封水を確保
トラップ部が取り外し可能、メンテナンスも簡単

D-STD-PU 50・65・75・100mm

D-3CO-STD-PU 50・65・75・100mm

50mm 100mm

50mm

総発売元 イクイップメントのサポート商社

株式会社 昭栄

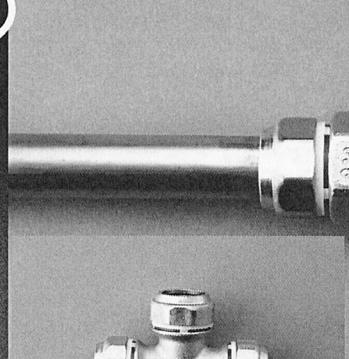
本社 〒541-0059 大阪市中央区博効町2-3-1
☎(06)6262-1241 FAX(06)6262-5947

本店営業部 〒577-0815 東大阪市金物町6-10
☎(06)6725-9311 FAX(06)6725-9333

東京 ☎(042)487-6811 北関東 ☎(048)458-1234
大阪 ☎(06)6531-9601 金沢 ☎(076)291-9011
中国 ☎(086)246-2611 姫路 ☎(079)284-4101
四国 ☎(087)864-7351 松江 ☎(0852)26-1124
福岡 ☎(092)928-5001 北九州 ☎(093)951-7021
千葉 ☎(043)258-3811 大分 ☎(097)555-9840
神奈川 ☎(046)278-2322 鹿児島 ☎(0995)62-3301
山梨 ☎(055)279-5711

印管継手
給水・給湯・冷温水に!! 2つのSUS管用継手登場!

ワンタッチ式 **SUSDAKE** (サスダケ) **新製品!**



拡管式メカ継手
ZLOK
(ゼットロック)

- ・印管継手
- ・管端防食管継手 **PQWK**
- ・日立カップリング継手 オメガシリーズ
- ・日立密閉型膨張タンクシリーズ
- ・ウォーターハンマ防止器

日立金属株式会社

〒541-0041

大阪市中央区北浜3-5-29(日生淀屋橋ビル)

TEL:06-6203-9704 FAX:06-6202-0730

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

HITACHI